

パレット評判記 (三) エス、キタヤマ

故大下藤次郎氏のパレット

に言ッても段々ある、これはまた素適減法界に上等のパ
レットで、さうして今は大下家の家寶の一ツに列せられ
た榮譽ある遺愛のパレットなのである。

何でも三十六年の春頃英國のニユマンと言ふ老彩料店か
ら洋行中に購められたさうでアルミニウム製の二枚折
で、裏にはNEWMANと刻印が銘^うである、三寸八分に入
寸と言ふ大きな——割合に軽い——品物だ、中は矢つ張
りエナメル塗り、仕切は十五付いて居る、價は幾らした
か誰にも分らない、があまり安くはなかつたらうと想像
が出来る、そして三十六年から、つい此間まで御奉公し
た此パレットの何處に一點の傷もなければ、無論修繕し
た跡も認められぬ——左の端から列べられた繪具の名を
舉げれば、ホワイト。レモンエロー。オレオリン。カド
ミウムミツドル。エロオーカ。バーミリオン。ライトレ
ット。バーントシーナ。ブラウンマダー。ローズマダー。
ブラウンピンク。インデゴ。コバルト。オルトラマリ
ン。ビリヂアンと云ふ順序でホワイトの場所の内隅にネ
ーブルスエロー、パレットの眞中にコバルトグリーンが
押出されて居る——繪具は大底ニユマンだがニユトンの
乾製を煉り直して使はれたことも覺えて居る。次は誰？

友へ

南のわかも

Y君

私は此頃いろんな事を考へます。何んだか考へずにはいられ
ぬやうな心持がします。考へれば考へる程いろんな問題が出來
てきて、仕舞には壓迫されるやうな苦痛を感じます。でそれか
ら逃れる爲につまらぬ遊戲をします。其中に淋しくもの足りな
くなつて來て又ものを考へるやうになるのです。其考へた事は
つまらぬ事かも知れませんが、それでも私の眞面目に考へた事
なのです。

私は技巧と云ふものを尊重します。技巧と云ふもの無しには
繪は描けないかと思ひます。然し今私の云はうとする所は、昔
から云ふ單なる筆づかひと云ふやうなものではありません。無
智な人々を欺く爲に筆の先でごまかす事ではありません。作家
が其主觀を繪と云ふ形式——其他の藝術でも同じかと思ひます
が、今は繪ばかりに就いて云ひます——で表はそうとする時、
畫布の上に繪具を着けるのに、其作家の心のふるへを其まゝに
傳へやうとする事なのです。そうした場合に其形式は即ち内容
なのでは無いでしょうか。私はそう云ふ意味で技巧に腑心した
いと思ひます。

或日Y君の家でY君が繪を描くのを見てゐました。それはも
やの深いある寒い夕方でした。西の空にはローズ色が流れ、其
空と融け合つて淡い鼠に丘が見へてゐて、それから手前の電車